

# blood news

## 今回のテーマ “好中球空胞変性の臨床的意義”

白血球数や白血球の分画、特に stab 以上の幼若好中球の比率は、SIRS の診断に重要な所見となります。また、SIRS などの炎症時には、好中球に特徴的な形態変化が観察されます。その変化とは、図 1 に示すような好中球細胞質の空胞変性や、中毒顆粒、デーレ小体の出現です。特に空胞変性の比率が高い症例や大きな空胞を認める症例では、血液培養で菌が検出されることが多いことを我々は経験しています。文献的に調べてみると、好中球の空胞変性は重症度と関係があると書かれています。そこで、好中球空胞変性と重症度の関係を調べてみたところ、白血球数は重症度と



関係はなく、好中球の空胞変性の所見が重症度、特に予後と関係している結果が得られ、従来の報告と一致していました。そのため、SIRS 症例では白血球数のみで経過観察するのではなく、その中身の好中球の形態学的変化を見落とさないためにも血液像の依頼をしていただければと思います。

凝血学的所見と好中球空胞変性との関係は、炎症時に重要な凝固パラメーターの AT-III, ProteinC, tPAIC, TM と好中球空胞変性は相関していました。また、空胞変性が高い比率の症例では、極めて強い凝血学的異常が認められます。血液検査室では表 1 に示す検査データに注意をして炎症性疾患を follow up しており、特に好中球の空胞変性が著しい時にはコメントをしています。そのような時には、FDP-E, AT-III や凝固線溶マーカーなどの凝血学的動態のチェックやエンドキシン、血液培養をぜひ調べてみて下さい。

### 表 1.血液検査室からみた重症化しやすい SIRS 症例の検査データのポイント

- 1)白血球数の急激な減少を示す症例
- 2)血小板数が半減を示す症例
- 3)好中球の形態異常を有する症例・・・stab 以上の比率、細胞質の空胞変性、中毒顆粒
- 4)腎機能 (BUN,cre )や肝機能 (GOT,GPT,LDH )検査値の上昇傾向にある症例
- 5)CRP が持続高値で、LDH/PLT 比が上昇傾向にある症例